

2023 青森県知事選挙 立候補予定者への 公開質問状 回答(50音順)

質問1

現在のCO2排出量が続いた場合、1.5℃の気温上昇までの時間的なリミットが6年となっており、早急な脱炭素化への取組の加速が、将来における気候変動による被害を防ぐために必要と国連・科学者が強く警鐘しています。

青森県として、脱炭素社会を実現するために実施していきたい具体的な政策を教えてください。

<小野寺さん>

高い断熱性能を持つ「あおりエコ住宅」を年100棟支援します。

<楠田さん>

今青森県民の生活水準は、日本全国でほぼ最低です。生きるのが精一パイです。そこでこれを中心にすすめることはできません。私の公約を読んでいただければ、就労先を増やす。収入を増やす政策です。このために環境問題が障害になって事業拡大ができなければ逆効果になってしまいます。ただし将来的に青森県民にも不利益なことですから今は教育・啓蒙活動で十分だと思えます。

<宮下さん>

森林の再整備(森づくり)について積極的に推進します。

<横垣さん>

ゴミ減量・マイバック推進・省エネ住宅推進・EV推進・薪ストーブ推進・住宅への太陽光パネル設置推進・大型公共事業の見直し・自転車の普及と自転車の整備・公共交通の充実・自動販売機の規制・リターナルボトル、ビンの普及・再エネ買取り価格の下支え・送配電事業者への再エネ優先持続の義務化・公共施設への太陽光パネル設置・郊外ショッピングモールの規制と計画的な街づくり

質問2

青森県地球温暖化対策推進計画の改定案(2023年3月)では2030年の削減目標値が2013年度比で51.1%削減に引き上げられました。1.5℃目標実現のためには、日本全体として62%以上の削減が必要と研究機関(クライメイトアクショントラッカー)からは示されています。

この数値を踏まえた場合、青森県としても、さらなる削減の高みを目指してほしいと考えますが、**温室効果ガスの削減目標についてのお考えを教えてください。**

<小野寺さん>

青森県は令和3年4月「脱炭素チャレンジ宣言」を行っており、2050年 脱炭素社会へGX(グリーントランスフォーメーション)を展開します。

<楠田さん>

青森県民の出す温室効果ガスはすべて生活に必要最低限です。その人口は120万人、仮に首都圏4000万人でむだをはぶけば、青森の40倍な多くの産業があり、400倍の効果があがります。青森1 首都圏400なら、どこが重要かポイントを押えてこのガスの削減をはかるのが良い。

<宮下さん>

国としての方針に青森県として貢献したい。

<横垣さん>

子どもの未来を奪う地球温暖化への対策は、待ったなしです。私は、2040年までにCO2はじめ温室効果ガス排出ゼロをめざします。

質問3

現在はCO2を多く排出する火力発電がメイン電源になっておりますが、**2030年に向けて、青森県の電源構成をどのようにしていきたいかお考えを教えてください。**

(再エネ 火力 原子力などの電力構成の割合などについてのお考え)

【参考】青森県では、2030年に再エネの比率を60.2%にする計画となっております。

<小野寺さん>

再生エネルギーの構成を高めることで、火力・原子力への依存度を低下させていくべきと考えます。

<楠田さん>

私は原子力も火力も必要と考えます。ただし、青森に不足しているのは自然エネルギーの開拓です。風力、地熱発電がほとんどできていません。太陽光パネルを耕作地に設置するのは大反対です。県民にお金があれば新築住宅には太陽光発電の設置義務を条例で定めたいが、やはり県民所得が低いとそれできません。やはり話がもどりますが収入を上げる政策が重要です。

<宮下さん>

県内だけの電源構成ではなく、国の電源構成に県として協力したい。

<横垣さん>

再エネ 80% 火力 20%

質問4

当選された場合、青森県知事として今回の質問状と同時に提出した、「気候変動政策に関する提案・要望書」の内容について意見交換会の機会をご検討いただけますか？

<小野寺さん>

・検討したい

<楠田さん>

・難しい

<宮下さん>

・その他（当選後のことを考える余裕は現時点ではありません。）

<横垣さん>

・検討したい